

外来植物研修会に参加して

堀井 達夫

9月30日、外来植物の研修会で、所沢滝の城址から清瀬の金山公園まで柳瀬川沿いに歩きながら、外来植物とアサガオの仲間を見ながら歩いた。本来は、17日に実施する予定だったが、台風の影響のため中止となってしまった。その後、講師の牧野先生に都合をつけていただいたのの実施となった次第。参加者は21名（一般15名、会員4名、スタッフ2名）であった。

観察をスタートして最初に出会ったのがシマスズメノヒエだった。「小穂に白い毛が沢山あるのが特徴ですよ」との説明であったが、肉眼ではよく分からない。ルーペで見てやっと白毛を確認できた。そろそろメガネの替え時かなと思う。

外来種の中でも一番やっかいなのがアレチウリで、他の植物を覆い隠し、ものすごい勢いで繁茂していて特定外来種に指定されている。オオブタクサも勢いよく、4mを越えるほどの高さに成長している。こいつ等を駆除するのは簡単ではないだろうな。浅い水辺にはオオブサモがかなり広い範囲を占めているが、一見すると緑色が鮮やかで冬枯れの時期には相当目立ちそうだ。水槽に入れる水草用として持ち込まれたのが野生化したのだが、やはり特定外来種に指定されている。



ヒメジョオンのロゼットがあり、ハルジオンとの違いは葉柄が長く先に大きな葉があることから、「姫は頭でっかち」と教えてもらった。

「アサガオ類を写真で記録するときは花の上から写すのではなく、横から写すように」との説明があった。同定するときには大切な葉柄やがくを観察するためだ。マメアサガオはがくが長三角で花柄にイボイボがあることで

判別ができることを現物を見ながら学んだ。これなら花が散った後でも判別可能だ、同じようにマルバルコウのがくは棒状突起があってこれで判別できる。納得！

「この葉っぱを噛んでみなさい」と言われて噛んだら、辛い！ヤナギタデの葉っぱで若葉はさしみのつまにされる由（番外）。この他にセイタカアワダチソウやオオニシキソウ等自分の記録では42種の外来種を観察した。いろいろ教えていただき、外来生物県民参加モニタリング調査の時に、大変参考になることと思う。

青空の広がる多少暑い日だったが、木陰に入ると涼しさを感じる程の絶好の観察日よりだった。